

安藤昌益（1703-1762）『自然真営道』

→ことば・文字について

このようにいっさいの文字は、支配者である聖人が勝手にでっちあげたもので、これを書物だ学問だともったいぶり、その知識を独占して上に立ち、下を教えるなどとして私欲にもとづく制度をこしらえ、みずからは働きもせず他人の生産物を貪り食い、生産活動（直耕）という自然の法則を私物化し、世の中に搾取と争乱の根を植えておきながら、社会を治めるなどとほざいている。これ以後永い間、搾取と争乱の絶えない世が続いてきた。だから文字や書物や学問は、自然の法則を私物化する道具である。文字や学問をこしらえた者は、活真の運動法則がいろりや顔に備わっていることを露ほども知らなかったのだ。だからそれを用いる者は、活真の大敵である。わたしが文字や書物による学問を否定する理由はここにある。

一切ノ文字ハ、己レガ得手勝手ニ私作シ、書学ト為シ、之レヲ以テ上ニ立ち、下ヲ教ユルト為テ私法ヲ立テ、不耕貪食シテ、直耕ノ転道ヲ盗ミ、盗乱ノ根ヲ植ユルヲ、転下ヲ治ムルト為ス。是レヨリ永永・盗乱ノ世ト成ル。故ニ字書・学問ハ転道ヲ盗ムノ器具ナリ。真道ハ炉・面ニ備ハルコトヲ知ラズ。故ニ文字・書学ヲ用ユル者ハ、転真ノ大敵ナリ。此ノ故ニ予、文字・書学ヲ採ラザル所以是レナリ。

ディスカッション・ポイント

- ことばは誰のもの？
- 「上に立ち、下を教える」
- 「知識を独占する」、知識社会

テーマを随時募集！気軽に！⇒ pasca-r@kanda.kuis.ac.jp